

## 「地下水に関する世論調査」の概要

内閣府政府広報室

- 1 調査目的 地下水に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。
- 2 調査項目 (1) 地下水に関する認識について  
(2) 地下水マネジメント推進への取組について
- 3 関係省庁 国土交通省
- 4 調査対象 (1) 母集団 全国18歳以上の日本国籍を有する者  
(2) 標本数 3,000人  
(3) 抽出方法 層化2段無作為抽出法
- 5 調査時期 令和3年9月30日～11月7日
- 6 調査方法 郵送法
- 7 調査実施機関 一般社団法人 中央調査社
- 8 回収結果 (1) 有効回収数(率) 1,701人 (56.7%)  
(2) 調査不能数(率) 1,299人 (43.3%)  
－不能内訳－  
宛先不明による返送 15 未返送 1,108 白票 6  
代理回答・記入不備 147 期間外 4 災害 0  
その他 19

### 9 性・年齢別回収結果

性・年齢	標本数	回収数	回収率	性・年齢	標本数	回収数	回収率	性・年齢	標本数	回収数	回収率
			%				%				%
男 18～19歳	57	33	57.9	男 18～19歳	30	18	60.0	女 18～19歳	27	15	55.6
男 20～29歳	330	133	40.3	男 20～29歳	160	57	35.6	女 20～29歳	170	76	44.7
女 30～39歳	398	222	55.8	女 30～39歳	210	104	49.5	女 30～39歳	188	118	62.8
女 40～49歳	513	281	54.8	女 40～49歳	272	141	51.8	女 40～49歳	241	140	58.1
計 50～59歳	473	295	62.4	計 50～59歳	246	156	63.4	計 50～59歳	227	139	61.2
計 60～69歳	438	298	68.0	性 60～69歳	218	146	67.0	性 60～69歳	220	152	69.1
計 70歳以上	791	439	55.5	計 70歳以上	342	213	62.3	計 70歳以上	449	226	50.3
計	3,000	1,701	56.7	計	1,478	835	56.5	計	1,522	866	56.9

## 調査結果の概要

### 1 地下水に関する認識について

#### (1) 地下水に関する認識

地下水についてどのようなことを知っているか聞いたところ、「夏は冷たく冬は温かい水である」を挙げた者の割合が69.3%と最も高く、以下、「いったん汚染されると回復には長い時間がかかる」(53.7%)、「川や湖などにつながっている」(52.4%)、「ペットボトル入りの飲料水の原料となっている」(44.3%)、「地下水の過剰採取が地盤沈下や塩水化などの障害を引き起こしている地域がある」(44.2%)、「化学物質などによる地下水汚染がみられる」(42.9%)などの順となっている。(複数回答、上位6項目)

性別に見ると、「夏は冷たく冬は温かい水である」、「ペットボトル入りの飲料水の原料となっている」、「地下水の過剰採取が地盤沈下や塩水化などの障害を引き起こしている地域がある」を挙げた者の割合は男性で高くなっている。

年齢別に見ると、「夏は冷たく冬は温かい水である」、「いったん汚染されると回復には長い時間がかかる」、「川や湖などにつながっている」、「化学物質などによる地下水汚染がみられる」を挙げた者の割合は60歳代、70歳以上で、「地下水の過剰採取が地盤沈下や塩水化などの障害を引き起こしている地域がある」を挙げた者の割合は50歳代から70歳以上で、それぞれ高くなっている。(図1、表1)

図1 地下水に関する認識

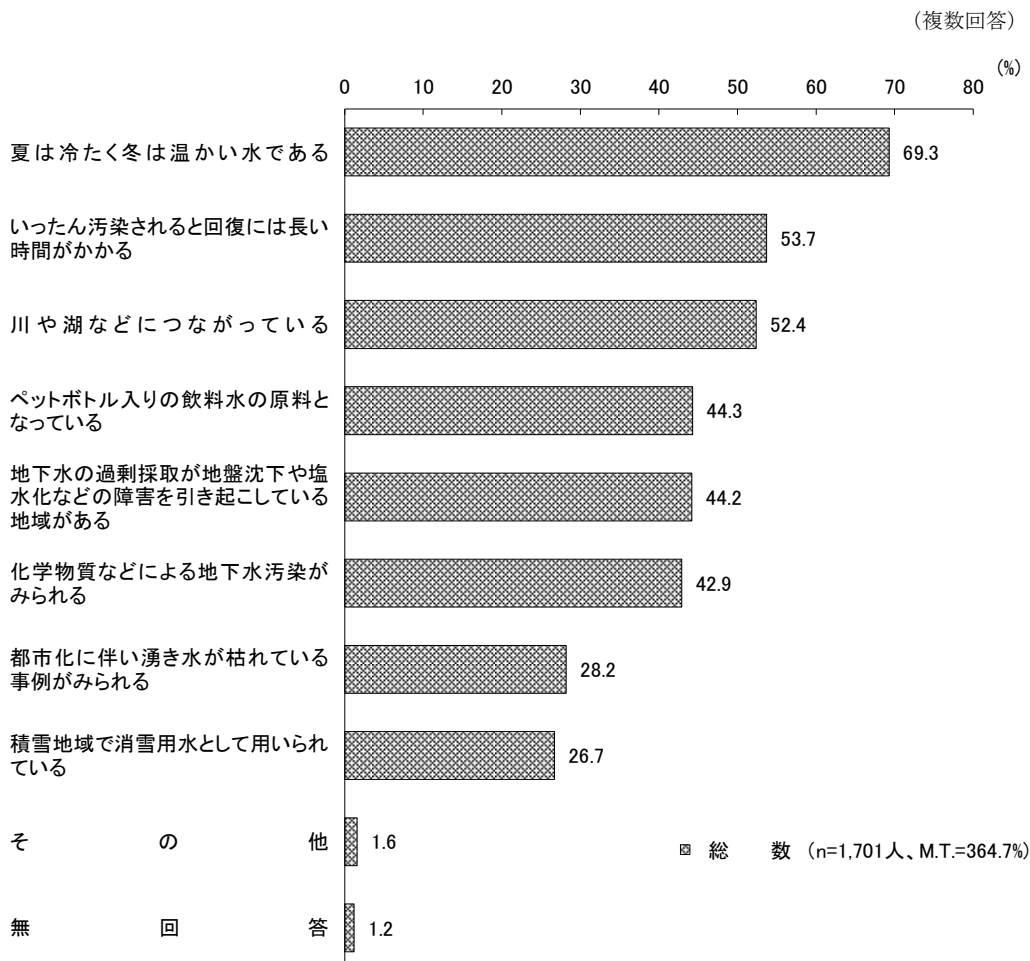


表1 地下水に関する認識

(複数回答)

	該 当 者 数	夏は冷たく冬は温かい水である	長い時間がかかると回復には	川や湖などにつながっている	ペットボトル入りの飲料水の原料となつて	地下水の過剰採取が地盤沈下や塩水化などの障害を引き起こしている地域がある	都市化に伴い湧き水が枯れている事例がみられる	化学物質などによる地下水汚染がみられる	都市化に伴い湧き水が枯れている事例がみられる	積雪地域で消雪用水として用いられている	その他	無 回 答	計 (M.T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	1,701	69.3	53.7	52.4	44.3	44.2	42.9	28.2	26.7	1.6	1.2	364.7	
〔都市規模〕													
大都市	479	64.5	56.2	55.9	46.3	46.8	44.5	28.6	26.5	1.9	1.9	373.1	
東京都区部	115	59.1	50.4	57.4	40.9	46.1	41.7	27.0	23.5	0.9	1.7	348.7	
政令指定都市	364	66.2	58.0	55.5	48.1	47.0	45.3	29.1	27.5	2.2	1.9	380.8	
中都市	712	70.1	52.8	53.1	43.4	43.4	44.0	29.1	27.1	1.4	1.3	365.6	
小都市	354	71.5	52.8	45.5	42.7	40.7	39.5	25.7	24.3	1.4	0.8	344.9	
町	156	75.0	52.6	54.5	46.2	48.1	41.0	28.2	31.4	2.6	-	379.5	
〔性〕													
男性	835	72.5	55.6	50.7	49.3	50.1	44.3	32.2	28.7	2.3	1.3	386.9	
女性	866	66.2	52.0	54.2	39.5	38.6	41.6	24.2	24.8	1.0	1.2	343.2	
〔年齢〕													
18～29歳	166	39.2	34.9	50.0	31.3	15.7	36.1	10.8	15.7	1.2	3.6	238.6	
30～39歳	222	52.3	40.1	47.7	43.7	27.0	34.2	18.0	18.5	3.6	1.4	286.5	
40～49歳	281	70.5	45.2	50.2	44.1	33.5	39.5	18.5	23.5	2.5	1.1	328.5	
50～59歳	295	70.2	56.6	47.1	43.7	52.9	45.1	32.5	30.8	1.4	0.3	380.7	
60～69歳	298	80.9	63.8	58.7	48.3	55.7	48.3	33.2	31.5	0.7	0.7	421.8	
70歳以上	439	80.0	64.5	56.5	47.4	56.9	46.9	39.6	31.2	1.1	1.4	425.5	

表1-参考 地下水に関する認識

(複数回答)

	該 当 者 数	夏は冷たく冬は暖かい水である	長い時間がかかると回復には	化学物質などによる地下水汚染がみられる	地下水の過剰採取が地盤沈下や塩水化などの障害を引き起こしている地域がある	都市化に伴い湧き水が枯れている事例がみられる(注1)	川や湖などにつながっている	ペットボトル入り飲料水の原料となつて(注2)	積雪地域で消雪用水として用いられている	その他	特に知っているものはない	わか ら な い	計 (M.T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
平成6年9月調査	2,113	70.2	※	43.9	42.4	27.7	※	17.0	21.7	0.1	8.8	2.6	234.4
平成11年8月調査	2,157	59.4	47.0	38.4	26.0	24.1	23.3	17.1	14.3	0.2	7.6	3.2	260.5

(注1) 平成6年9月調査では、「都市化に伴い湧き水が枯渇している事例がみられる」となっている。

(注2) 平成6年9月調査では、「ボトルウォーターなどの原料となつて」となっている。

(注3) 平成11年8月調査までは、「あなたは、地下水のことについて、どのようなことをご存じですか。この中からご存じのことをすべてあげてください。」と聞いている。

(注4) 平成11年8月調査までは、調査員による個別面接聴取法で実施しているため、令和3年9月調査との単純比較は行わない。

(2) 地下水の保全と利用のバランス意識

地下水の保全と利用のバランスについてどのように考えるか聞いたところ、「保全すべき」とする者の割合が42.3%（「できるだけ保全すべき」33.0%+「どちらかといえば保全すべき」9.3%）、「保全と利用のバランスをとるべき」と答えた者の割合が55.8%、「利用すべき」とする者の割合が1.1%（「どちらかといえば利用すべき」0.6%+「できるだけ利用すべき」0.5%）となっている。

性別に見ると、大きな差異は見られない。

(図2、表2)

図2 地下水の保全と利用のバランス意識

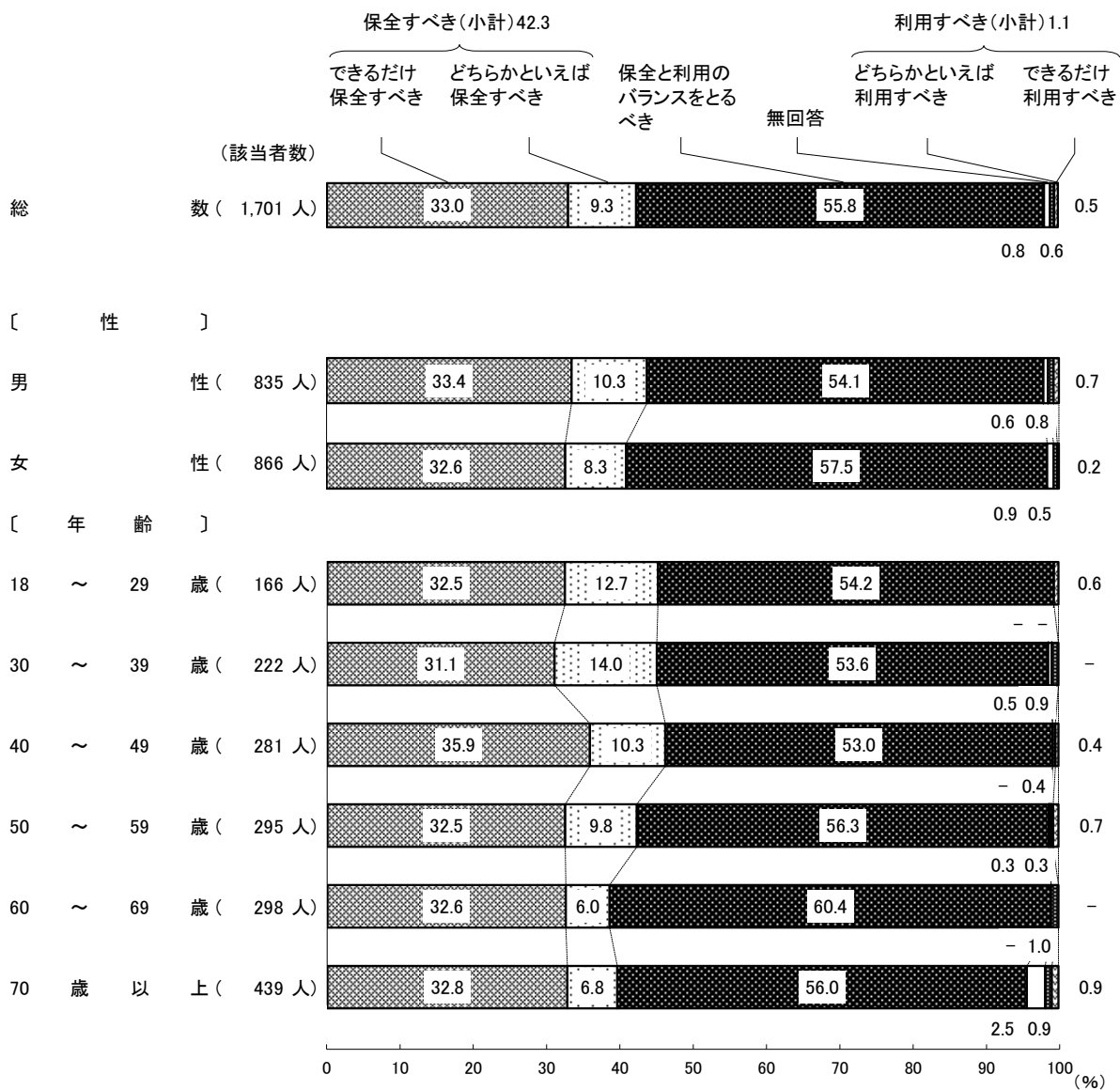


表2 地下水の保全と利用のバランス意識

	該 当 者 数	保 全 す ( 小 計 ) き	保 全 と 利 用 の バ ラ ン ス を と る べ き		保 全 と 利 用 の バ ラ ン ス を と る べ き	利 用 す ( 小 計 ) き	利 用 の バ ラ ン ス を と る べ き		無 回 答
			で き る だ け 保 全 す べ き	ど ち ら か と い え ば 保 全 す べ き			ど ち ら か と い え ば 利 用 す べ き	で き る だ け 利 用 す べ き	
総 〔 都 市 規 模 〕 大 都 市	1,701	42.3	33.0	9.3	55.8	1.1	0.6	0.5	0.8
東 京 都 区 部	479	43.6	35.9	7.7	55.1	0.2	0.2	-	1.0
政 令 指 定 都 市	115	46.1	41.7	4.3	53.9	-	-	-	-
中 都 市	364	42.9	34.1	8.8	55.5	0.3	0.3	-	1.4
小 都 市	712	41.4	31.9	9.6	56.0	1.8	1.1	0.7	0.7
町 村	354	40.4	30.8	9.6	58.2	1.1	0.3	0.8	0.3
〔 性 〕	156	46.2	34.0	12.2	51.9	0.6	0.6	-	1.3
男 性	835	43.7	33.4	10.3	54.1	1.6	0.8	0.7	0.6
女 性	866	40.9	32.6	8.3	57.5	0.7	0.5	0.2	0.9
〔 年 齢 〕									
18 ～ 29 歳	166	45.2	32.5	12.7	54.2	0.6	-	0.6	-
30 ～ 39 歳	222	45.0	31.1	14.0	53.6	0.9	0.9	-	0.5
40 ～ 49 歳	281	46.3	35.9	10.3	53.0	0.7	0.4	0.4	-
50 ～ 59 歳	295	42.4	32.5	9.8	56.3	1.0	0.3	0.7	0.3
60 ～ 69 歳	298	38.6	32.6	6.0	60.4	1.0	1.0	-	-
70 歳 以 上	439	39.6	32.8	6.8	56.0	1.8	0.9	0.9	2.5

(3) 水循環への意識

地下水は、海などから水が蒸発し、雨となって地表に降り、川や地下水となって海に達する水の循環の一部となっている。この水の循環を健全に保つことについてどう思うか聞いたところ、「健全に保つ必要がある」とする者の割合が99.1%（「健全に保つ必要がある」83.5%+「どちらかといえば健全に保つ必要がある」15.6%）、「健全に保つ必要はない」とする者の割合が0.5%（「どちらかといえば健全に保つ必要はない」0.4%+「健全に保つ必要はない」0.1%）となっている。

都市規模別に見ると、大きな差異は見られない。

性別に見ると、大きな差異は見られない。

(図3、表3)

図3 水循環への意識

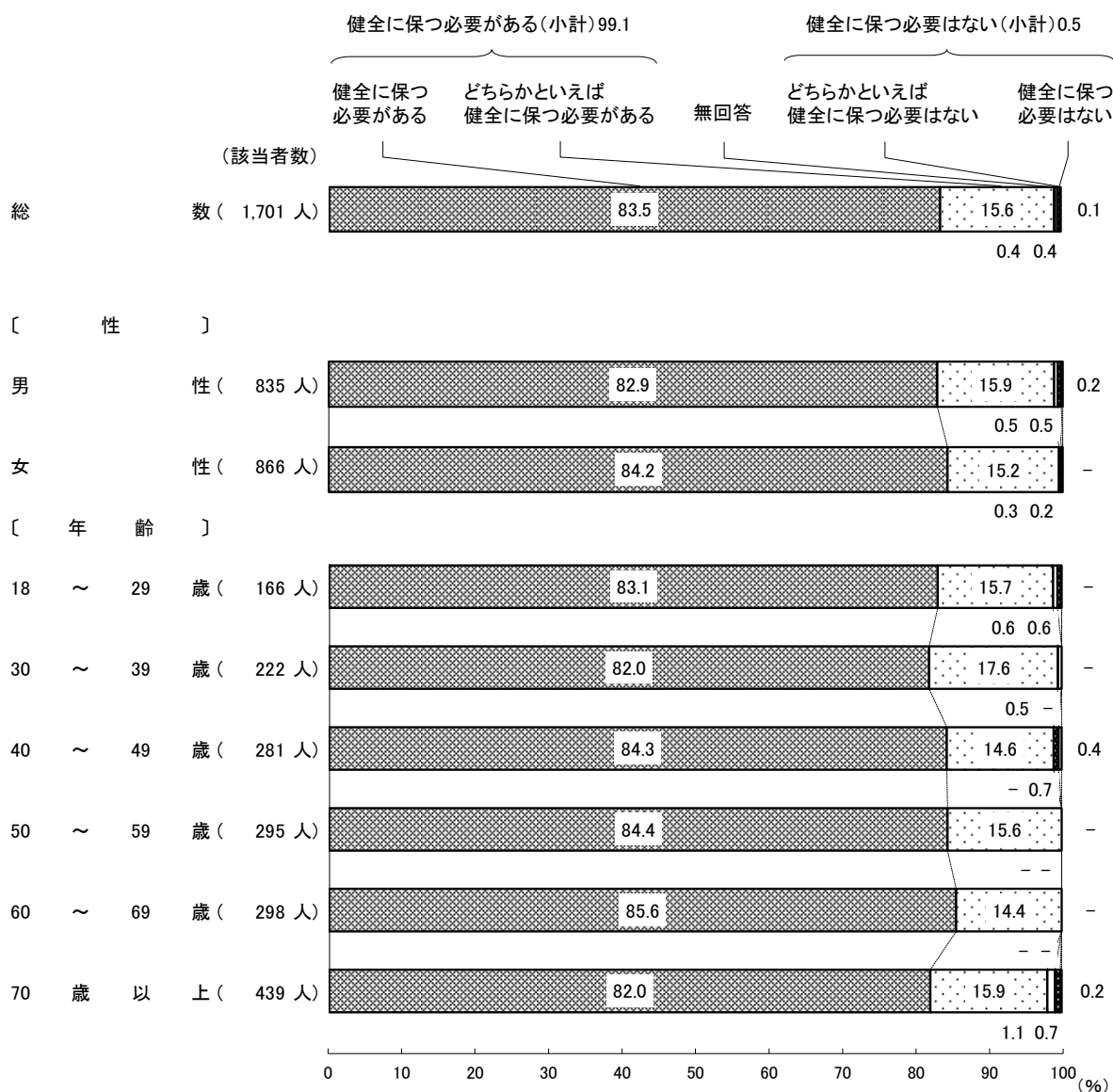


表3 水循環への意識

	該 当 者 数	健全に保つ必要がある			健全に保つ必要はない			無 回 答
		健全に保つ必要がある (小計)	健全に保つ必要がある	どちらかといえば健全に保つ必要がある	健全に保つ必要はない (小計)	どちらかといえば健全に保つ必要はない	健全に保つ必要はない	
	人	%	%	%	%	%	%	%
総数	1,701	99.1	83.5	15.6	0.5	0.4	0.1	0.4
〔都市規模〕								
大都市	479	99.2	83.5	15.7	0.2	0.2	-	0.6
東京都区部	115	100.0	89.6	10.4	-	-	-	-
政令指定都市	364	98.9	81.6	17.3	0.3	0.3	-	0.8
中都市	712	99.2	82.4	16.7	0.6	0.4	0.1	0.3
小都市	354	98.6	84.7	13.8	0.8	0.6	0.3	0.6
町	156	100.0	85.9	14.1	-	-	-	-
〔性〕								
男性	835	98.8	82.9	15.9	0.7	0.5	0.2	0.5
女性	866	99.4	84.2	15.2	0.2	0.2	-	0.3
〔年齢〕								
18～29歳	166	98.8	83.1	15.7	0.6	0.6	-	0.6
30～39歳	222	99.5	82.0	17.6	-	-	-	0.5
40～49歳	281	98.9	84.3	14.6	1.1	0.7	0.4	-
50～59歳	295	100.0	84.4	15.6	-	-	-	-
60～69歳	298	100.0	85.6	14.4	-	-	-	-
70歳以上	439	97.9	82.0	15.9	0.9	0.7	0.2	1.1

## 2 地下水マネジメント推進への取組について

### (1) 地下水問題を予防・解決する取組

行政が地域の関係者とともに地下水の問題を予防・解決する取組を行うことについてどう思うか聞いたところ、「必要と思う」とする者の割合が 98.1%（「必要と思う」79.9%+「どちらかといえば必要と思う」18.2%）、「必要と思わない」とする者の割合が 1.0%（「どちらかといえば必要と思わない」0.8%+「必要と思わない」0.2%）となっている。

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、「必要と思う」とする者の割合は 60 歳代で高くなっている。

(図 4、表 4)

図 4 地下水問題を予防・解決する取組

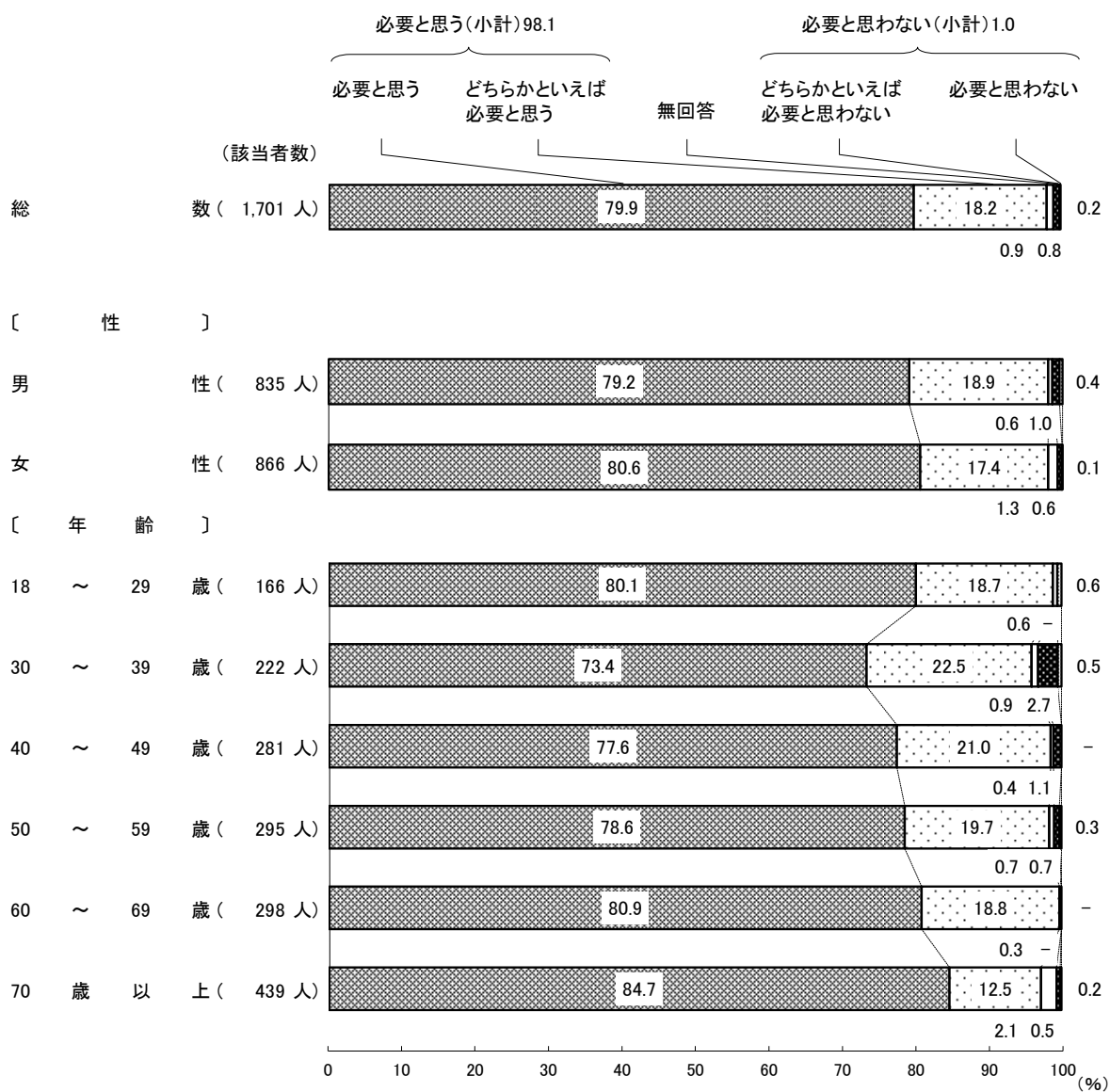




表4 地下水問題を予防・解決する取組

	該 当 者 数	必 要 と 思 う (小計)			必 要 と 思 わ な い (小計)			無 回 答
		必 要 と 思 う	必 要 と 思 わ な い	ど ち ら か と い え ば 必 要 と 思 う	必 要 と 思 わ な い	ど ち ら か と い え ば 必 要 と 思 わ な い	必 要 と 思 わ な い	
	人	%	%	%	%	%	%	%
総 〔都市規模〕	1,701	98.1	79.9	18.2	1.0	0.8	0.2	0.9
大 都 市	479	98.3	81.4	16.9	0.8	0.8	-	0.8
東 京 都 区 部	115	100.0	88.7	11.3	-	-	-	-
政 令 指 定 都 市	364	97.8	79.1	18.7	1.1	1.1	-	1.1
中 都 市	712	98.5	80.8	17.7	0.7	0.3	0.4	0.8
小 都 市	354	96.9	75.4	21.5	1.7	1.4	0.3	1.4
町 村	156	98.1	81.4	16.7	1.3	1.3	-	0.6
〔性〕								
男 性	835	98.1	79.2	18.9	1.3	1.0	0.4	0.6
女 性	866	98.0	80.6	17.4	0.7	0.6	0.1	1.3
〔年齢〕								
18 ～ 29 歳	166	98.8	80.1	18.7	0.6	-	0.6	0.6
30 ～ 39 歳	222	95.9	73.4	22.5	3.2	2.7	0.5	0.9
40 ～ 49 歳	281	98.6	77.6	21.0	1.1	1.1	-	0.4
50 ～ 59 歳	295	98.3	78.6	19.7	1.0	0.7	0.3	0.7
60 ～ 69 歳	298	99.7	80.9	18.8	-	-	-	0.3
70 歳 以 上	439	97.3	84.7	12.5	0.7	0.5	0.2	2.1

(2) 行政が行うべき取組

住んでいる地域で、地下水のくみ上げ過ぎによる地盤沈下・井戸枯れ・湧き水の枯渇、水質悪化などの地下水の問題が発生した場合に、行政、企業、住民などで構成する協議会などを設置する他に、どのような取組を行政が行うべきと考えるか聞いたところ、「地下水の実態調査と分析を行うべき」を挙げた者の割合が81.4%と最も高く、以下、「森林整備、水田に水を貯めるなど地中に水を浸透させる事業を行うべき」（41.2%）、「地下水のくみ上げ規制などを行うべき」（37.9%）、「節水の取組を推進すべき」（33.6%）などの順となっている。（複数回答、上位4項目）

都市規模別に見ると、「地下水のくみ上げ規制などを行うべき」を挙げた者の割合は大都市で高くなっている。

年齢別に見ると、「森林整備、水田に水を貯めるなど地中に水を浸透させる事業を行うべき」を挙げた者の割合は60歳代、70歳以上で、「地下水のくみ上げ規制などを行うべき」、「節水の取組を推進すべき」を挙げた者の割合は70歳以上で、それぞれ高くなっている。

(図5、表5)

図5 行政が行うべき取組

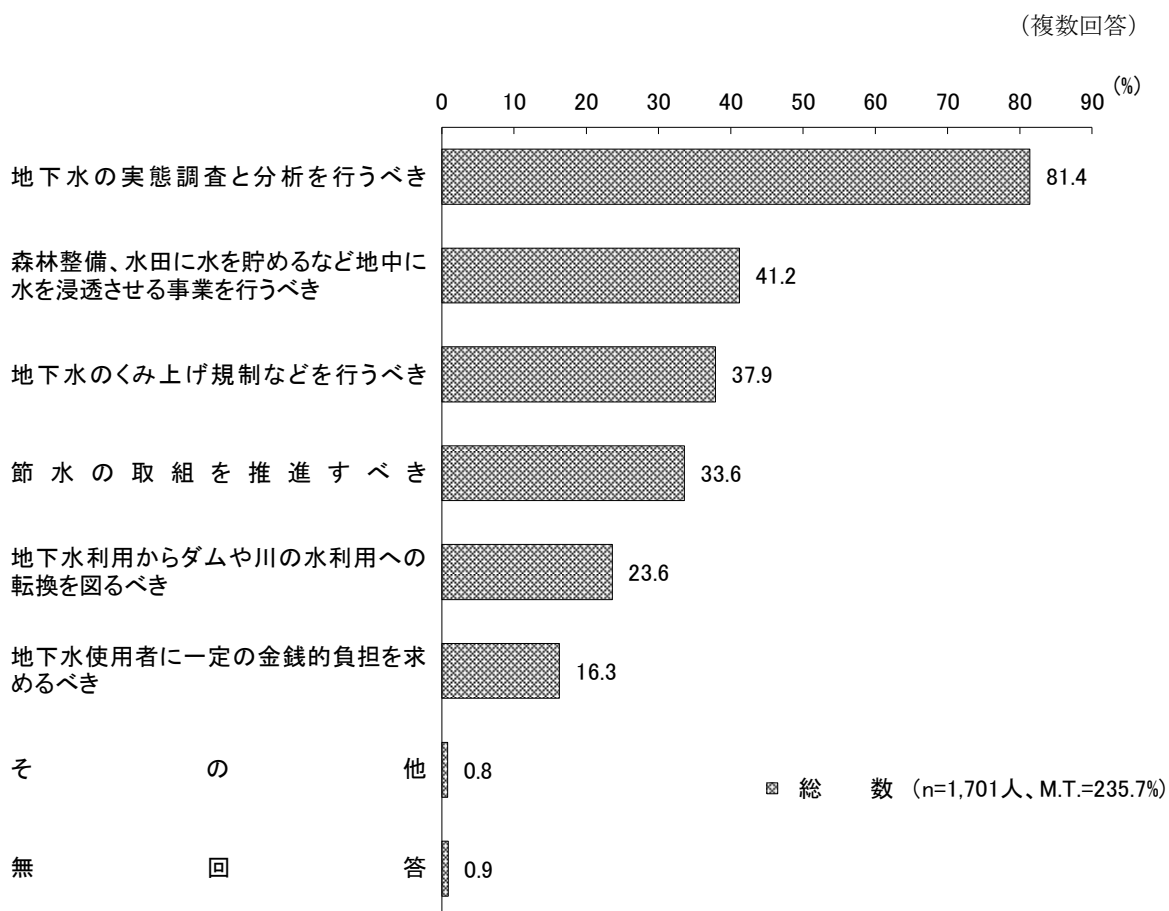


表5 行政が行うべき取組

(複数回答)

	該 当 者 数	地下水 の実態 調査と 分析を 行 うべき	森林 整備、 水田に 水を貯 めると する事 業を行 うべき	地下 水のく み上げ 規制な どを行 うべき	節 水 の 取 組 を 推 進 す べ き	地下 水利用 からダ ムや川 の水 利用へ の転換 を図る べき	地下 水使用 者に一 定の金 銭的 負担を 求める べき	そ の 他	無 回 答	計 (M. T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総 〔都市規模〕	1,701	81.4	41.2	37.9	33.6	23.6	16.3	0.8	0.9	235.7
大 都 市	479	81.2	43.8	42.2	34.2	26.5	18.4	0.8	0.6	247.8
東 京 都 区 部	115	81.7	40.0	47.0	32.2	26.1	24.3	1.7	-	253.0
政 令 指 定 都 市	364	81.0	45.1	40.7	34.9	26.6	16.5	0.5	0.8	246.2
中 都 市	712	81.6	42.8	37.1	35.1	22.8	15.7	0.8	1.0	236.9
小 都 市	354	80.8	33.6	33.6	29.4	23.2	13.8	0.6	1.4	216.4
町 村	156	82.7	42.9	37.8	34.6	19.2	17.9	1.3	-	236.5
〔性〕										
男 性	835	80.7	42.3	40.1	31.7	26.3	17.7	1.1	1.0	241.0
女 性	866	82.1	40.2	35.7	35.5	20.9	14.9	0.6	0.8	230.6
〔年齢〕										
18 ～ 29 歳	166	78.3	39.2	24.7	25.3	23.5	12.7	-	0.6	204.2
30 ～ 39 歳	222	81.1	33.8	32.0	31.1	25.2	15.8	0.5	-	219.4
40 ～ 49 歳	281	82.6	34.5	39.5	28.1	23.5	17.1	1.8	-	227.0
50 ～ 59 歳	295	83.4	36.6	39.0	32.9	23.7	18.6	0.3	0.7	235.3
60 ～ 69 歳	298	85.2	48.3	38.6	37.9	22.5	17.1	0.7	0.3	250.7
70 歳 以 上	439	78.1	48.3	43.5	39.2	23.5	15.3	1.1	2.5	251.5

# 地下水に関する世論調査

令和3年9月

(n=1,701)

ここからは、地下水についておうかがいします

問1. あなたは、地下水についてどのようなことを知っていますか。(〇はいくつでも)

- (69.3) 1. 夏は冷たく冬は温かい水である
- (52.4) 2. 川や湖などにつながっている
- (44.3) 3. ペットボトル入りの飲料水の原料となっている
- (26.7) 4. 積雪地域で消雪用水として用いられている
- (44.2) 5. 地下水の過剰採取が地盤沈下や塩水化などの障害を引き起こしている地域がある
- (42.9) 6. 化学物質などによる地下水汚染がみられる
- (28.2) 7. 都市化に伴い湧き水が枯れている事例がみられる
- (53.7) 8. いったん汚染されると回復には長い時間がかかる
- (1.6) 9. その他 (具体的に→) \_\_\_\_\_
- (1.2) 無回答 (M. T. =364.7)

全員の方が【資料1】を読んでから下の問2をお答えください

【資料1】

私たちの生活に欠くことのできない水は、河川、ダム、地下水などを水源としています。それぞれの水源の利用は、地域によって大きな違いがありますが、全国平均で見ると、お風呂・トイレ・キッチンなどで使う生活用水の約2割、工業用水の約3割が、地下水を水源としています。一方で、地下水はその特性として、くみ上げ過ぎによる地盤沈下・井戸枯れ・湧き水の枯渇、水質悪化などの問題が発生した場合、回復に長い期間を要します。

問2. あなたは、地下水の保全と利用のバランスについてどのように考えますか。(〇は1つ)

- (33.0) 1. できるだけ保全すべき
- (9.3) 2. どちらかといえば保全すべき
- (55.8) 3. 保全と利用のバランスをとるべき
- (0.6) 4. どちらかといえば利用すべき
- (0.5) 5. できるだけ利用すべき
- (0.8) 無回答

問3. 地下水は、海などから水が蒸発し、雨となって地表に降り、川や地下水となって海に達する水の循環の一部となっています。あなたは、この水の循環を健全に保つことについてどう思いますか。(〇は1つ)

- (83.5) 1. 健全に保つ必要がある
- (15.6) 2. どちらかといえば健全に保つ必要がある
- (0.4) 3. どちらかといえば健全に保つ必要はない
- (0.1) 4. 健全に保つ必要はない
- (0.4) 無回答

次のページの問4に進んでください

**全員の方が【資料2】を読んでから下の問4  
以降をお答えください**

**【資料2】**

地下水は身近な水源として広く利用されていますが、くみ上げ過ぎによる地盤沈下・井戸枯れ・湧き水の枯渇、水質悪化などの問題が生じる場合もあります。こうした地下水の問題に対して、その予防や解決のため、行政が地下水の調査・分析を行い、企業や住民などの地域の関係者とともに対応を協議し、それぞれが行うべき取組を行っている地域もあります。

**問4. あなたは、行政が地域の関係者とともに地下水の問題を予防・解決する取組を行うことについてどう思いますか。(○は1つ)**

- (79.9) 1. 必要と思う
- (18.2) 2. どちらかといえば必要と思う
- (0.8) 3. どちらかといえば必要と思わない
- (0.2) 4. 必要と思わない
- (0.9) 無回答

**問5. あなたの住んでいる地域で、地下水のくみ上げ過ぎによる地盤沈下・井戸枯れ・湧き水の枯渇、水質悪化などの地下水の問題が発生した場合に、行政、企業、住民などで構成する協議会などを設置する他に、あなたは、どのような取組を行政が行うべきと考えますか。**

(○はいくつでも)

- (81.4) 1. 地下水の実態調査と分析を行うべき
- (33.6) 2. 節水の取組を推進すべき
- (41.2) 3. 森林整備、水田に水を貯めるなど地中に水を浸透させる事業を行うべき
- (23.6) 4. 地下水利用からダムや川の水利用への転換を図るべき
- (37.9) 5. 地下水のくみ上げ規制などを行うべき
- (16.3) 6. 地下水使用者に一定の金銭的負担を求めるべき
- (0.8) 7. その他 (具体的に→) \_\_\_\_\_
- (0.9) 無回答 (M. T. =235.7)